

# 「森を守る地道な一歩」

宮崎県立高鍋農業高等学校 2年 田 原 雅 生

「これも鹿に食われてるな」

父が私にそう口ずさみ、スギの新芽を見せてくれました。黄緑色の新芽は切り取るように食べられ、成長の止まったスギの木はまっすぐ上へ伸びず、横に枝が広がっていました。

私の住む日向市東郷町は森林に囲まれ、スギ丸太の生産や原木しいたけ栽培が盛んな自然豊かな地域です。私の父は、林業に従事しており、幼い頃から父の姿に強い憧れを抱いていました。そんな父の影響もあり、私は森林やその役割に興味を持つようになりました。中学3年生のある日、私は父とともに山へ入り、鹿ネットの設置と草刈りを手伝いました。父から「鹿はスギの樹皮や新芽を食べ、森林全体の成長を止めてしまうんだ」と教わりました。鹿は、ネットを飛び越えたり地面を掘ったりして侵入します。防ぐためには、急斜面の硬い地面に支柱を深く挿し込み、ネットの裾を土に埋め込まなければなりません。しかし、真っすぐに挿すことさえ困難で、全身泥だらけになる作業は想像を超える重労働でした。帰り道、父はさらに深刻な被害が出ている場所を見せてくれました。そこは、樹皮や下草が食べ尽くされ、多くの木が倒れ、地面がむき出しになっていました。雨で土壌は流れ、いたるところで土砂崩れが起きていました。今まできれいに整備されてきた森林しか見てこなかった私にとって、その光景は言葉を失うほどの衝撃であり、森林の厳しい現実を突きつけられた瞬間でした。それと同時に、私は大切なことに気がつきました。私たちが、普段目にする美しい森林は、気が遠くなるような地道な作業の積み重ねと多くの人の努力によって支えられていたのです。「森林管理は、地道な作業一つひとつの積み重ねである。」を身をもって体験したからこそ、私はこの事実を深く胸に刻みました。

私は将来、地元の森林を守り、東郷町を盛り上げ、地域の活性化に貢献できる人材になりたいと考えています。しかし、林業だけで生計を立てていくことは簡単ではありません。そこで、私が挑戦したいのが、森の恵みである「ジビエ」や「原木しいたけ」と特産果樹である「日向夏」や「キンカン」を組み合わせた「林業の複合経営」です。

鹿やイノシシによる獣害は深刻ですが、見方を変えれば貴重な地域資源です。捕獲した命を無駄にせずジビエとして活用し、地域の特産品として発信すれば、被害対策と地域活性化を同時に進めることができます。さらに、果樹栽培を組み合わせることで、林業体験や収穫体験、ジビエ料理の試食会といった観光や体験型イベントにつなげることができます。森林と人との距離をぐっと縮めることは、山を守る仲間が増えることにもつながるはずです。この夢を実現するため、私は現在、父の林業を手伝いながら、園芸科学科で果樹について学んでいます。果樹は林業と多くの共通点があります。野菜のようにすぐには成果が出ず、草刈りや摘果などといった地道な作業を1年間積み重ねて、ようやく1度、果実を実らせます。私は、この「地道な積み重ね」こそが、自分の性分に合っていると感じています。今後は、さらに専門的な知識と技術を身に付け、この地道な努力を続けていきます。

あの日、山の中で見た食害の光景を、私は一生忘れません。自然の厳しさと正面から向き合い、一步一步の努力を積み重ねることで、森林と大好きな東郷町の未来をしっかりと支える担い手へと成長してみせます。